

教科名	国語		科目名		論理国語		単位数		2		
対象	高校2年		履修形態		必修		授業形態		習熟度別		
学習の到達目標	① 近代以降の文章を読解できる能力を高め、大学入試に対応できる能力を身につけている。 ② 言語感覚や思考力を磨き、適切に他者理解をしながら考え方を深め、人生を豊かにする姿勢を育てる。 ③ 書く・話すことを基に、進んで自身の意見を表現することによって、正しく相手に伝える力を育てる。										
評価の観点 評価方法	① 知識・技能…定期考査、単元別テストの取り組みで評価。 ② 思考・判断・表現…授業態度、発表用資料作成、課題提出物などで評価。 ③ 主体的学習に取り組む態度…授業への取り組み、発表で評価。										
学習方法	① 様々な教材を用いた先取り学習を行い、論理的な思考と確かな知識を付ける。 ② 学校独自教材や、型にはまらない多角的な国語へのアプローチ方法で生徒の発想と積極性を育てる。 ③ 他者に自分の考えや思いを、正しく分かりやすく伝えることを目指す取り組みを行う。										
教科書・教材等	論理国語（大修館） 現代文グレートラーニング40レベル3 自作テキスト など										
年間授業計画											
月	学習内容		学習のねらい		時数	月	学習内容		学習のねらい		時数
4	評論：「システムとしてのセルフサービス」 「スキーマと記憶」		筆者の独特な文体を論理的に読み取り、構成・展開・要旨などを的確に理解する。		6	10	評論：「こころは見える？」 「日常に走る亀裂」		筆者の主張や内容を捉えさせ、近代科学の方法論について読解を深めるとともに、抽象的・概念的な用語や表現を理解する。		8
5	評論：「分かち合う社会」 「デジタル地図から見える世界」		筆者の考察を読み取り、社会や科学への理解を深める。文章を批判的に読むことを通して、自分の考えを深め、表現できる力を養う。		8	11	小説：「赤い繭」 評論：「言語と他者」		社会と個人の関係という漠然とした作品中の作者のアイデンティティを読み取り、作品の道筋を学習者それぞれの考えを出し合いながら比較検討する力を養う。		8
6	小説：「山椒魚」		豊かな表現を読み味わうとともに、作者が施した表現技法の狙いも把握し、小説の構構性を理解する。		8	12	評論：「猫は後悔するか」 「多数決を疑う」		これまでの学習成果を踏まえ、哲学的で抽象度の高い文章や政治と社会に関する文章を的確に理解し、要約できる力を身につける。		6
7	評論「無常ということ」		文章の構成や、段落相互の関係を読み取らせ、筆者の主張や内容をとらえ、読解力を高める。		6	1	大学入試対策		入試頻出内容・分野をとりあげ、主に大学入試対策の演習を行う。適宜教科書の読解も行い、入試基礎力をつける。新制度入試問題への対応力を付ける演習や指導も随時行う。		6
8	復習及び発展内容				2	2	大学入試対策		入試頻出内容・分野をとりあげ、主に大学入試対策の演習を行う。適宜教科書の読解も行い、入試基礎力をつける。新制度入試問題への対応力を付ける演習や指導も随時行う。		8
9	評論：「あらわれと消え去り」 「共感覚と比喻」		文章の構成や、段落相互の関係を読み取らせ、筆者の主張や内容をとらえ、読解力・要約力を高める。		8	3	大学入試対策		入試頻出内容・分野をとりあげ、主に大学入試対策の演習を行う。適宜教科書の読解も行い、入試基礎力をつける。新制度入試問題への対応力を付ける演習や指導も随時行う。		2

備考 ・副教材を活用した問題演習も、授業中に行う。 ・適宜、論文指導を行う。

教科 科 名		国語		科 目 名		古典探究		単 位 数		2	
対 象		高校2年		履 修 形 態		必修		授 業 形 態		習熟度別	
学 習 の 到達 目 標		① 古典を正確に読解し的確に理解する能力を育成し、大学入試に対応できる能力を身につける。 ② 様々な時代の文学（近現代の作品を含む）を学ぶことで、思考力を伸ばし心情を豊かにする。 ③ 言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深める。									
評 価 の 観 点 評 価 方 法		① 知識・技能…定期考査、単元別テストの取り組みで評価。 ② 思考・判断・表現…授業態度、発表用資料作成、課題提出物などで評価。 ③ 主体的学習に取り組む態度…授業への取り組み、発表で評価。									
学 習 方 法		① 様々な教材（古典教材・現代文教材）を用いた比較・探究を行い、論理的な思考と確かな知識を付ける。 ② 学校独自教材や、型にはまらない多角的な国語へのアプローチ方法で生徒の発想と積極性を育てる。 ③ 他者に自分の考えや思いを、正しく分かりやすく伝えることを目指す取り組みを行う。									
教科書・教材等		精選古典探究（大修館） 古典グレートラーニング48レベル3 必携新明説漢文（尚文） 自作テキスト など									
年 間 授 業 計 画											
月	学 習 内 容		学 習 の ね ら い		時数	月	学 習 内 容		学 習 の ね ら い		時数
4	古文：「源氏物語」 ・ 桐壺 ・ 若紫		「源氏物語」の世界に親しみ、その魅力を理解する。また、それぞれの場面、登場人物の人間関係を正確につかみ、微妙な心理を理解する。内容を的確に捉えるために、作品の中で使われる敬語表現を理解する。	6	10	漢文：「文章」 ・ 桃花源記 古文「和泉式部日記」 ・ 薫る香に		作品に現れる社会観・自然観を読み取り、自己の感じ方を豊かにさせる。また、速読・速解能力に磨きをかける。 作者の感情を読み取り、物語的な日記の内容を構成や展開に即して的確に理解する。また和歌の贈答について理解し、恋愛感情の高まるさまを読み取る。	8		
5	漢文：「故事・逸話」 ・ 糟糠の妻 ・ 塞翁が馬		漢文構造・句法事項に関しては抜けの無いようにする。また、漢文に親しみ、当時の人々の考え方や生き方を学ぶ。	8	11	漢文：「思想」 ・ 賢哉回也 ・ 暴虎馮河 古文：「蜻蛉日記」 ・ 町の小路の女		孔子や孟子等の学問や政治、思想に対する考え方を知り、当時の物の考え方や社会性を学ばせ、速読・速解能力に磨きをかける。 和歌の表現技法を理解したり、登場人物の意図を捉え、人物間の心情を表現に即して深く読み味わえるようにする。	8		
6	古文：「大鏡」 ・ 花山院の出家 漢文：「史伝」 「項羽と劉邦」 ・ 鴻門之会 ・ 四面皆楚歌す		作品の内容を構成や展開に即して的確にとらえる。歴史物語としての特色を理解する。読解の前提となる敬語や文法知識を身につける。 表現や修辞、文体等の特色を理解し、その巧みな描写、簡潔な語調などの優れた表現に親しむ。また漢文の基本句法を修得する。	8	12	復習及び発展内容			6		
7	漢文：「漢詩」		唐代の有名な詩人の詩を繰り返し音読し、人生観や自然観についての認識を深めるとともに、漢文独特の口調・句法を習得する。また、近体詩の規則・特徴を理解する。	6	1	大学入試対策		入試頻出内容・分野をとりあげ、主に大学入試共通テスト対策の演習を行う。適宜教科書の読解も行い、入試基礎力をつける。新制度入試問題への対応力を着ける演習や指導も随時行う。	6		
8	復習及び発展内容			2	2	大学入試対策		入試頻出内容・分野をとりあげ、主に大学入試対策の演習を行う。適宜教科書の読解も行い、入試基礎力をつける。新制度入試問題への対応力を着ける演習や指導も随時行う。	8		
9	古文：「枕草子」 ・ 中納言参りたまひて ・ 二月つごもりごろに		随筆の学習を通じて、作者の人柄と感性の特質を理解し、個性的な感想の面白さを味わう。平安時代の宮中の様子など古典常識を身につける。場面状況に応じた本文の読み取りから、読解の基礎を養う。	8	3	大学入試対策		入試頻出内容・分野をとりあげ、主に大学入試対策の演習を行う。適宜教科書の読解も行い、入試基礎力をつける。新制度入試問題への対応力を着ける演習や指導も随時行う。	8		

備考

教 科 名	地理歴史		科 目 名		世界史探究		単 位 数		3		
対 象	高校2年		履 修 形 態		選択必修		授 業 形 態		一斉		
学 習 の 到 達 目 標	① 世界の歴史を日本の歴史と関連付け、世界の構造や成り立ちを歴史的視野から理解しかつ考察する力を養う。 ② 他国や他の地域と協調していく態度を身につける。 ③ 民主的、平和的な国家の一員としての自覚をもつ。 ④ 国際社会の中で、主体的に行動する日本人としての資質を培う。										
評 価 の 観 点 評 価 方 法	① 知識・技能…定期考査、ワークシートなどで評価。 ② 思考・判断・表現…授業内での発言、定期考査、ワークシートなどで評価。 ③ 主体的学習に取り組む態度…授業内での発言、課題提出物、ワークシートなどで評価。										
学 習 方 法	① 教科書記載事項を重視し、熟読をする。 ② 授業で解説や補足説明を受ける。 ③ 問題演習によって復習することにより、知識の定着を図る。										
教 科 書・教材等	詳説世界史探究（山川出版社）、詳説世界史授業用整理ノート（山川出版社） 詳説世界史図録（山川出版社）										
年 間 授 業 計 画											
月	学 習 内 容		学 習 の ね ら い		時数	月	学 習 内 容		学 習 の ね ら い		時数
4	【第1章】 文明の成立と古代文明の特質 【第2章】 中央ユーラシアと東アジア世界		農耕・牧畜などの古代文明の成り立ちを理解する。 中央ユーラシアの遊牧と、東アジアの国家について理解する。		9	10	【第12章】 産業革命と環大西洋革命 【第13章】イギリスの優位と欧米国民国家の形成		産業革命や、アメリカ独立革命、フランス革命について理解する。 国民国家の形成について理解する。		12
5	【第3章】 南アジア世界と東南アジア世界の展開 【第4章】 西アジアと地中海周辺の国家形成		ヒンドゥー教や仏教などを受け入れながら栄えた南インドと、中国などと交流をおこなってきた東南アジアについて理解する。 イラン・ギリシア文明について理解する。		12	11	【第14章】 アジア諸地域の動揺 【第15章】 帝国主義とアジア民族運動		ヨーロッパによるアジアの従属化と植民地かの進行を理解する。 アジア・アフリカでのナショナリズム運動について理解する。		12
6	【第5章】 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成 【第6章】 イスラーム教の伝播と西アジアの動向 【第7章】 ヨーロッパ世界の変容と展開		西アジアに定着したイスラーム教と、それに対抗したビザンツ帝国とフランク王国について理解する。その後、各地に広まり、モンゴルの来襲を受けたことを理解する。 中世の西ヨーロッパについて理解する。		12	12	【第16章】 第一次世界大戦と世界の変容 【第17章】 第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成		各国の利害関係と、二度の世界大戦を行わざるを得なかった状況を理解する。		9
7	【第8章】 東アジア世界の展開とモンゴル帝国 【第9章】 大交易・大交流の時代		唐・宋の支配を継承したキタイや金と、モンゴル帝国の動きについて理解する。 モンゴル帝国解体後、地球規模で一体化が進んだことを理解する。		9	1	【第18章】 冷戦と第三世界の台頭		冷戦体制により世界が分裂し、段階的に独立を達成したアジア・アフリカ諸国が第三勢力として発言力を強めたことを理解する。		9
8	【まとめと復習】		一学期の内容をおさらいし、知識を定着させる。		3	2	【第19章】 冷戦の終結と今日の世界		東欧社会主義圏とソ連の解体、情報技術革命とグローバル経済の進展、多発する地域紛争と同時多発テロ後の戦争、紛争解決や軍縮の試みを理解する。		12
9	【第10章】 アジア諸帝国の繁栄 【第11章】 近世ヨーロッパ世界の動向		オスマン帝国・サファビー朝などの諸帝国について理解する。 海洋進出や宗教改革をへて、近世に入ったヨーロッパについて理解する。		12	3	【まとめと復習】		一年の内容をおさらいし、知識を定着させる。 問題演習を行い、大学入試へつなげる。		9

教科名	地理歴史	科目名	日本史探究	単位数	3		
対象	高校2年	履修形態	選択必修	授業形態	一斉		
学習の到達目標	① 我が国の歴史の展開を日本史的視野に立って総合的に学習し、考察させる。 ② 我が国の文化と伝統の特色についての認識を深めさせることによって歴史的思考力を培う。 ③ 国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。						
評価の観点 評価方法	① 知識・技能…定期考査、ワークシートなどで評価。 ② 思考・判断・表現…授業内での発言、定期考査、ワークシートなどで評価。 ③ 主体的学習に取り組む態度…授業内での発言、課題提出物、ワークシートなどで評価。						
学習方法	① 教科書・史料集・図録を用い、歴史を考察する基本的な方法を身につける。 ② 史料・資料を読み取り、歴史的事象の因果関係を見つけ、受験に必要な知識・技法を身につける。 ③ 大学入試・校外模試の問題演習を行い、受験に必要な知識を身につける。						
教科書・教材等	詳説日本史探究（山川出版社）、詳説日本史授業用整理ノート（山川出版社） 詳説日本史図録（山川出版社）						
年間授業計画							
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	【第1章】 日本文化のあけぼの	日本列島の自然環境の変化と、生活文化への影響を理解する。	9	10	【第10章】 幕藩体制の動揺 【第11章】 近世から近代へ	幕藩体制が動揺し始め、国内外の問題とも相まって、崩壊へと進む道を理解する。 新たな政治体制が生まれ、近代国家へと成長する道のりを理解する。	12
5	【第2章】 古墳とヤマト政権 【第3章】 律令国家の形成	政治連合の形成と、大陸とのかかわりを理解する。 中国の制度を模倣した律令国家の支配体制について理解する。	12	11	【第12章】 近代国家の成立 【第13章】 近代国家の展開	明治政府が列強にならって近代化をすすめたことを理解する。 その流れの中で戦争に勝利し植民地を得て、新たな国際関係に中へと入っていく過程を理解する。	12
6	【第4章】 貴族政治の展開 【第5章】 院政と武士の躍進	貴族政治の展開と、地方の支配体制について理解する。 力を付けた武士の台頭と、院政のきっかけについて理解する。	12	12	【第14章】 近代の産業と生活 【第15章】 恐慌と第二次世界大戦	近代国家へと変化した日本では庶民の生活も西洋の文明・技術を受け入れて様変わりしたことを理解する。 国際的な協調体制が崩れ、日本が大きな戦争に向かっていくことを理解する。	9
7	【第6章】 武家政権の成立 【第7章】 武家社会の成長	本格的な武家政権が内外の脅威を経て全国に広がる過程を理解する。 また南北朝の動乱をへて、武士の家族制度に大きな変化があったことを理解する。	9	1	【第16章】 占領下の日本 【第17章】 高度成長の時代	第二次大戦後、アメリカの占領政策により、大きな改革が行われたことを理解する。 独立回復後は長い繁栄を謳歌したことを理解する。	9
8	【まとめと復習】	一学期の内容をおさらいし、知識を定着させる。	3	2	【第18章】 激動する世界と日本	冷戦構造が崩壊し、世界のグローバル化が進む中での日本の立ち位置を理解する。	12
9	【第8章】 近世の幕開け 【第9章】 幕藩体制の成立と展開	日本列島を一つに統一した政権の出現について理解する。 その後に誕生した安定政権の統治体制について理解する。	12	3	【まとめと復習】	一年の内容をおさらいし、知識を定着させる。 問題演習を行い、大学入試へつなげる。	9

教 科 名	地理歴史	科 目 名	地理探究	単 位 数	3		
対 象	高校2年	履 修 形 態	選択必修	授 業 形 態	一斉		
学 習 の 到達 目 標	① 近代世界の地理的な事象を系統地理的、地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養う。 ② 地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。						
評 価 の 観 点 評 価 方 法	① 知識・技能…定期考査、ワークシートなどで評価。 ② 思考・判断・表現…授業内での発言、定期考査、ワークシートなどで評価。 ③ 主体的学習に取り組む態度…授業内での発言、課題提出物、ワークシートなどで評価。						
学 習 方 法	① 地図帳、プリント（資料）類を使い、板書をノート整理し、効率よく地理的な事象を把握する。 ② 基礎事項を確認し、地図・地名・用語・統計を理解する。 ③ 問題演習によって地理的な諸課題について、知識の定着を図る。						
教科書・教材等	地理探究（二宮書店） 新詳高等地図（帝国書院） 新編地理資料（とうほう） データブックオブザワールド（二宮書店） 地理探究ワークブック（二宮書店）						
年 間 授 業 計 画							
月	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	時数	月	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	時数
4	【第Ⅰ編】 第1章 自然環境 ①地形 ②気候と生態系	地形に関わる諸事象の規則性、傾向性や人間による利用などについて理解する。 また気候と生態系に関わる規則性、傾向性や、気候の地域性などについて理解する。	9	10	②村落・都市 第5章 文化と国家 ①生活文化と言語・宗教 ②国家とその領域	村落・都市に関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、居住・都市問題の現状や要因、解決に向けた取組、民族問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。	12
5	③世界各地の自然と生活 ④日本の自然環境と防災	世界各地の自然と生活に関わる諸事象の規則性、傾向性や、気候区分の方法などについて理解する。 また、日本の自然環境に関わる諸事象の規則性、傾向性や、自然災害などについて理解する。	12	11	【第Ⅱ編】 第1章 地域区分 第2章 現代の諸地域 ①中国 ②朝鮮半島 ③東南アジア	世界の大国としての中国や隣国としての韓国について、歴史的背景や経済体制、政策などの項目を整理しながら基本的な知識を習得する。 経済発展の著しい東南アジアについて基本的な知識を習得する。	12
6	⑤地球環境問題 第2章 資源と産業 ①農林水産業	地球環境に関わる諸事象の規則性、傾向性や、持続可能な地球環境の開発のあり方などについて理解する。 また、農林水産業に関わる諸事象の規則性、傾向性や、食糧問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解する。	12	12	④南アジア ⑤西アジア・中央アジア	近年急成長するインドを中心とした南アジアや、乾燥地帯に位置する西アジア・中央アジアについて基本的な知識を習得する。	9
7	②資源・エネルギー ③工業 ④第3次産業	資源・エネルギーに関わる諸事象の規則性、傾向性や、資源・エネルギー問題の現状や要因、解決に向けた取組、工業生産のグローバル化に伴う諸課題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。	9	1	⑥北アフリカ・サブサハラアフリカ ⑦ヨーロッパ ⑧ロシア	広大な大陸に位置するアフリカ、地域統合の進んだヨーロッパ、世界最大の面積を持つロシアなどについて自然や産業などについて考察させる。	9
8	【まとめと復習】	一学期の内容をおさらいし、知識を定着させる。	3	2	⑨アングロアメリカ ⑩ラテンアメリカ ⑪オーストラリア ⑫ニュージーランドと島嶼国	広大な面積を持つアングロアメリカの2か国、南北に長いラテンアメリカ、南半球に位置する大陸国家オーストラリア、日本と同じ太平洋に面するニュージーランドとオセアニアの島嶼国などについて基本的な知識を習得させる。	12
9	第3章 人・モノ・金のつながらり ①交通・通信 ②貿易・環境 第4章 ①人口	交通・通信、運輸、観光に関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、交通・通信に関わる問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。 人口に関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、人口問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。	12	3	【第Ⅲ編】 ①現代日本に求められる国土像 【まとめと復習】	日本がかかえる地理的な課題を生徒自らに発見させ、その課題を多面的・多角的に考察、探究させる。	9

教 科 名	数学		科 目 名	数学Ⅱ(数学ⅠAⅡ)		単 位 数	4				
対 象	高校2年(文系)		履 修 形 態	必修		授 業 形 態	習熟度別				
学 習 の 到達 目 標	① 基礎的な知識の確認と技能の習得を図りつつ、来たる将来の大学受験に適応できる能力をつけていくための応用力を養っていく。										
評価の観点 評価方法	① 学期ごとに科目を10段階法で評価する。 ② 学年末には、全学期の成績をもって5段階法で評定を算定する。 ③ 評定にあたっては、ペーパーテストなどによる知識や技能のみの評価などの観点に偏した評定を行わず、「知識・技能」「思考・表現・判断」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点による評価を踏まえて行う。										
学 習 方 法	① 授業で学んだ数学的な見方・考え方、公式等の有用性を確認する。 ② 教材等を用いて、途中経過を丁寧に記述することを通し、他人に納得してもらい説明が書けるよう心がける。										
教科書・教材等	高等学校 数学Ⅱ(数研出版)、4STEP 数学Ⅱ+B(数研出版)、チャート式 基礎からの数学Ⅱ+B(数研出版) 進研WINSTEP数学ⅠA Basic(ラーンズ)、進研WINSEP数学ⅡBC Basic(ラーンズ)										
年 間 授 業 計 画											
月	学 習 内 容		学 習 の ね ら い		時数	月	学 習 内 容		学 習 の ね ら い		時数
4	第3節 積分法 6. 不定積分 7. 定積分 8. 定積分と面積		定積分の定義や性質を理解し、それを利用する定積分の計算方法を理解する。定積分は定数であることを理解し、それを利用して、定積分を含む関数を求めることができる。 積分と面積の関係を理解し、活用できるようにする。		12	10	場合の数と確率		教科書例題レベルの問題を通して、定理・公式の基本的な使い方を確認する。また、模試・入試の問題を通して、重要なテーマの考え方・解法をマスターし、今の実力を測る。		16
5	数と式		教科書例題レベルの問題を通して、定理・公式の基本的な使い方を確認する。また、模試・入試の問題を通して、重要なテーマの考え方・解法をマスターし、今の実力を測る。		16	11	図形の性質		教科書例題レベルの問題を通して、定理・公式の基本的な使い方を確認する。また、模試・入試の問題を通して、重要なテーマの考え方・解法をマスターし、今の実力を測る。		16
6	2次関数		教科書例題レベルの問題を通して、定理・公式の基本的な使い方を確認する。また、模試・入試の問題を通して、重要なテーマの考え方・解法をマスターし、今の実力を測る。		16	12	三角関数		教科書例題レベルの問題を通して、定理・公式の基本的な使い方を確認する。また、模試・入試の問題を通して、重要なテーマの考え方・解法をマスターし、今の実力を測る。		12
7	図形と計量		教科書例題レベルの問題を通して、定理・公式の基本的な使い方を確認する。また、模試・入試の問題を通して、重要なテーマの考え方・解法をマスターし、今の実力を測る。		12	1	指数関数・対数関数		教科書例題レベルの問題を通して、定理・公式の基本的な使い方を確認する。また、模試・入試の問題を通して、重要なテーマの考え方・解法をマスターし、今の実力を測る。		12
8	データ分析		教科書例題レベルの問題を通して、定理・公式の基本的な使い方を確認する。また、模試・入試の問題を通して、重要なテーマの考え方・解法をマスターし、今の実力を測る。		4	2	微分法・積分法		教科書例題レベルの問題を通して、定理・公式の基本的な使い方を確認する。また、模試・入試の問題を通して、重要なテーマの考え方・解法をマスターし、今の実力を測る。		16
9	データ分析		教科書例題レベルの問題を通して、定理・公式の基本的な使い方を確認する。また、模試・入試の問題を通して、重要なテーマの考え方・解法をマスターし、今の実力を測る。		16	3	微分法・積分法		教科書例題レベルの問題を通して、定理・公式の基本的な使い方を確認する。また、模試・入試の問題を通して、重要なテーマの考え方・解法をマスターし、今の実力を測る。		12

備考

教科名	数学	科目名	数学Ⅱ(数学Ⅲ)	単位数	4		
対象	高校2年(理系)	履修形態	必修	授業形態	習熟度別		
学習の到達目標	① 基礎的な知識の習得と授業の充実を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばす。 ② 極限、微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習得を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。						
評価の観点 評価方法	① 学期ごとに科目を10段階法で評価する。学年末には、全学期の成績をもって5段階法で評定を算定する。 ② 評定にあたっては、ペーパーテスト等による知識や技能のみの評価に偏した評定を行わない。 ③ 「知識・技能」「思考・表現・判断」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点による評価を踏まえて行う。						
学習方法	① 授業で学んだ数学的な見方・考え方、公式等の有用性を確認する。そして、教材等を用いて、途中経過を丁寧に記述することを通し、他人に納得してもらえ説明が書けるよう心がける。 ② 今までに学んだ考え方・公式等と、授業で新たに学んだ考え方・公式のつながりを意識するよう心がける。						
教科書・教材等	高等学校 数学Ⅱ(数研出版) 高等学校 数学Ⅲ(数研出版)、4STEP 数学Ⅱ+B(数研出版)、チャート式 基礎からの数学Ⅱ+B(数研出版) 4STEP 数学Ⅲ+C(数研出版)、チャート式 基礎からの数学Ⅲ+C(数研出版)、クリアー数学演習ⅢC受験編(数研出版) 進研WINSTEP数学ⅠA Basic(ラーンズ)、進研WINSEP数学ⅡBC Basic(ラーンズ)						
年間授業計画							
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	〈数学Ⅱ〉 第3節 積分法 6. 不定積分 7. 定積分 8. 定積分と面積	定積分の定義や性質を理解し、それを利用する定積分の計算方法を理解する。定積分は定数であることを理解し、それを利用して、定積分を含む関数を求めることができる。 積分と面積の関係を理解し、活用できるようにする。	12	10	第3章 微分法 第1節 導関数 1. 微分係数と導関数 2. 導関数の計算 3. いろいろな関数の導関数 4. 第n次導関数 5. 曲線の方程式と導関数	定義に従って微分係数や導関数を求めることができ、微分可能と連続との関係を正確に理解することができるようにする。積・商、合成関数・逆関数の導関数の計算方法を身につける。 三角関数、指数・対数関数、高次導関数を求めることができるようにする。媒介変数で表された関数の導関数を求めることができるようにする。	16
5	〈数学Ⅲ〉 第1章 関数 1. 分数関数 2. 無理関数 3. 逆関数と合成関数	分数関数・無理関数についての理解を深め、それらを具体的な事象の考察に活用できるようにする。 元の関数と逆関数の関係や合成関数の写像的な概念を理解する。	16	11			16
6	第2章 極限 第1節 数列の極限 1. 数列の極限 2. 無限等比数列 3. 無限級数	極限についての理解を深め、極限の性質や、無限の概念を用いて数列の極限を求めることができるようにする。公比の場合分けによって、等比数列がどのような極限になるのかを考えることができるようにする。 様々な式変形に対応し、無限等比級数の値を求めることができるようにする。	16	12	第4章 微分法の応用 第1節 導関数の応用 1. 接線の方程式 2. 平均値の定理 3. 関数の値の変化 4. 関数のグラフ	導関数を用いて接線・法線の方程式を求めたり、グラフの増減に関する問題が解けるようにする。 第2次導関数を用いてグラフの正確な形が分かるようにする。	12
7			12	1			12
8	第2節 関数の極限 4. 関数の極限(1) 5. 関数の極限(2) 6. 三角関数と極限 7. 関数の連続性	簡単な関数の極限について、グラフなどで直観的に考察できる。不定形を解消するように関数の式を変形することにより、関数の極限值が求められる。 定義に基づいて、様々な関数の連続性、不連続性を判定することができる。	4	2	第2節 いろいろな応用 5. 方程式、不等式への応用 6. 速度と加速度 7. 近似式	グラフを利用して、方程式・不等式を解く。速度・加速度と微分の関係を理解し問題を解くことができ、近似式を用いて近似値を求めることができるようにする。	16
9			16	3	第5章 積分法とその応用 第1節 不定積分 1. 不定積分とその基本性質 2. 置換積分法と部分積分法 3. いろいろな関数の不定積分	いろいろな関数についての不定積分法・定積分法を理解し、その有用性を認識する。いろいろな関数についての積分法を、図形の求積などに活用できるようにする。	12

備考

教 科 名		数 学	科 目 名		数 学 B C	単 位 数		4			
対 象		高校2年(文系)	履 修 形 態		必修	授 業 形 態		習熟度別			
学 習 の 達 成 目 標		① 基礎的な知識の確認と技能の習得を図りつつ、来たる将来の大学受験に適応できる能力をつけていくための応用力を養っていく。									
評価の観点 評価方法		① 学期ごとに科目を10段階法で評価する。 ② 学年末には、全学期の成績をもって5段階法で評定を算定する。 ③ 評定にあたっては、ペーパーテストなどによる知識や技能のみの評価などの観点に偏した評定を行わず、「知識・技能」「思考・表現・判断」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点による評価を踏まえて行う。									
学習方法		① 授業で学んだ数学的な見方・考え方、公式等の有用性を確認する。 ② 問題演習で途中の過程を丁寧に記述することを通じて、他人に納得してもらえ説明を書けるよう心がける。									
教科書・教材等		高等学校 数学B(数研出版)、高等学校 数学C(数研出版)、4STEP 数学Ⅱ+B(数研出版)、4STEP 数学C(数研出版) チャート式 基礎からの数学Ⅱ+B(数研出版)、チャート式 基礎からの数学C(数研出版) 進研WINSEP数学ⅡBC Basic(ラーンズ) 共通テスト対策・短期完成 統計的な推測ノート(数研出版)									
年 間 授 業 計 画											
月	学 習 内 容		学 習 の ね ら い		時数	月	学 習 内 容		学 習 の ね ら い		時数
4	＜数学C＞ 第1章 平面上のベクトル 第2節 ベクトルと平面図形 6. ベクトルの図形への応用 7. 図形のベクトルによる表示		位置ベクトルを用いて、始点の変更による式変形ができるようにする。線分上の点を、線分をs：(1－s)に内分する点として処理できるようにする。		12	10	数列	教科書例題レベルの問題を通して、定理・公式の基本的な使い方を確認する。また、模試・入試の問題を通して、重要なテーマの考え方・解法をマスターし、今の実力を測る。			16
	5	第2章 空間のベクトル 1. 空間の点 2. 空間のベクトル 3. ベクトルの成分 4. ベクトルの内積		平面上のベクトルの拡張として空間のベクトルを捉え、空間図形の性質の考察などに活用できるようにする。		16					11
6		5. ベクトルの図形への応用 6. 座標空間における図形		様々な空間図形の考察にベクトルを活用しようとしてすることができる。		16	12	統計的な推測	教科書例題レベルの問題を通して、定理・公式の基本的な使い方を確認する。また、模試・入試の問題を通して、重要なテーマの考え方・解法をマスターし、今の実力を測る。		
	7	＜数学B＞ 第2章 統計的な推測 第1節 確率分布 1. 確率変数と確率分布 2. 確率変数の期待値と分散 3. 確率変数の和と積 4. 二項分布 5. 正規分布		確率変数と確率分布について理解し、期待値や分散、標準偏差などを求めることを通じて、分布の特徴を把握できるようにする。連続型確率変数についても理解し、正規分布を様々な日常の事象の考察に活用できるようにする。		12	1				
8		第2節 統計的な推測 6. 母集団と標本 7. 標本平均の分布 8. 推定 9. 仮説検定		母集団と標本、標本平均について理解し、特に標本平均については、それが確率変数であることを正しく理解した上で考察できるようにする。また、母平均や母比率の推定、正規分布を用いた仮説検定ができるようにする。		4	2	ベクトル	教科書例題レベルの問題を通して、定理・公式の基本的な使い方を確認する。また、模試・入試の問題を通して、重要なテーマの考え方・解法をマスターし、今の実力を測る。		
	9					16	3				

備考

教科名	数学	科目名	数学BC	単位数	4
対象	高校2年(理系)	履修形態	必修	授業形態	習熟度別
学習の到達目標	① 数学について理解させ、基礎的な知識の習得と授業の充実を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。 ② 校外模試を意識した基礎力の充実と、応用力の育成を図る。				
評価の観点 評価方法	① 学期ごとに科目を10段階法で評価する。 ② 学年末には、全学期の成績をもって5段階法で評定を算定する。 ③ 評定にあたっては、ペーパーテストなどによる知識や技能のみの評価などの観点に偏した評定を行わず、「知識・技能」「思考・表現・判断」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点による評価を踏まえて行う。				
学習方法	① 授業で学んだ数学的な見方・考え方、公式等の有用性を確認する。 ② 問題演習で途中の過程を丁寧に記述することを通じて、他人に納得してもらえ説明を書けるよう心がける。				
教科書・教材等	高等学校 数学B(数研出版) 高等学校、数学C(数研出版) 4STEP 数学Ⅱ+B(数研出版)、4STEP 数学Ⅲ+C(数研出版) チャート式 基礎からの数学Ⅱ+B(数研出版)、チャート式 基礎からの数学Ⅲ+C(数研出版) 共通テスト対策・短期完成 統計的な推測ノート(数研出版)、クリアー数学演習ⅠAⅡBC 受験編(数研出版)				

年間授業計画

月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	<数学C> 第1章 平面上のベクトル 第2節 ベクトルと平面図形 6. ベクトルの図形への応用 7. 図形のベクトルによる表示	位置ベクトルを用いて、始点の変更による式変形ができるようにする。線分上の点を、線分をs: (1-s) に内分する点として処理できるようにする。	12	10	<数学C> 第1章 複素数平面 1. 複素数平面 2. 複素数の極形式 3. ド・モアブルの定理 4. 複素数と図形	複素数平面に対応させ、極形式、ド・モアブルの定理を理解する。図形の性質を複素数の計算を用いて考察できるようにする。図形の性質を複素数の計算を用いて考察できるようにする。	16
5	第2章 空間のベクトル 1. 空間の点 2. 空間のベクトル 3. ベクトルの成分 4. ベクトルの内積	平面上のベクトルの拡張として空間のベクトルを捉え、空間図形の性質の考察などに活用できるようにする。	16	11			16
6	5. ベクトルの図形への応用 6. 座標空間における図形	様々な空間図形の考察にベクトルを活用しようとしてすることができる。	16	12	第2章 式と曲線 第1節 2次曲線 1. 放物線 2. 楕円 3. 双曲線 4. 2次曲線の平行移動 5. 2次曲線と直線 6. 2次曲線の性質	いろいろな曲線の性質を理解する。また、いろいろな変換の意味を理解させて活用できるようにする。	12
7	<数学B> 第2章 統計的な推測 第1節 確率分布 1. 確率変数と確率分布 2. 確率変数の期待値と分散 3. 確率変数の和と積 4. 二項分布 5. 正規分布	確率変数と確率分布について理解し、期待値や分散、標準偏差などを求めることを通じて、分布の特徴を把握できるようにする。連続型確率変数についても理解し、正規分布を様々な日常の事象の考察に活用できるようにする。	12	1			12
8	第2節 統計的な推測 6. 母集団と標本 7. 標本平均の分布 8. 推定 9. 仮説検定	母集団と標本、標本平均について理解し、特に標本平均については、それが確率変数であることを正しく理解した上で考察できるようにする。また、母平均や母比率の推定、正規分布を用いた仮説検定ができるようにする。	4	2	第2節 媒介変数表示と極座標 7. 曲線の媒介変数表示 8. 極座標と極方程式	曲線の媒介変数表示の意味を理解し、媒介変数表示を用いて既習の曲線を表すことができるようにする。極座標を用いて既習の曲線を表すことができる。また、極座標を用いることで容易に表せる曲線についての考察ができるようにする。	16
9			16	3	受験大学問題演習	国公立二次・私立大学の個別試験の演習を行い、応用力をつける。	12

備考

教科名	理科	科目名	化学	単位数	4		
対象	高校2年(理系)	履修形態	必修	授業形態	一斉		
学習の到達目標	① 化学の役割や物質の扱い方を理解する。 ② 物質に対する関心を高め、物質を探究する方法を身につける。 ③ 基本的な概念を理解し、物質について微視的な見方ができるようにする。						
評価の観点 評価方法	① 知識・技能・・・定期考査、実験技能やレポートの提出状況、及びその内容で評価 ② 思考・判断・表現・・・実力テストや定期考査で評価 ③ 主体的に学習に取り組む態度・・・授業での活動状況、課題の取り組み状況で評価						
学習方法	① 授業の板書内容をノートに整理し、要点をとらえる。 ② 授業時に行う演習で、基本事項を確実に押さえる。 ③ 自ら進んで問題演習を行い、理解を深める。						
教科書・教材等	化学(東京書籍) センサー総合化学(啓林館)、オリジナルテキスト						
年間授業計画							
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	〔化学〕 第2編 化学反応とエネルギー 1. 結晶 2. 金属結晶の構造 3. イオン結晶の構造 4. 分子結晶と共有結合の結晶	・結晶の成り立ちとその構造について学ぶ。 ・アモルファスについて学ぶ。	12	10	4章 遷移元素の単体とその化合物 1. 遷移元素とその化合物 2. 金属イオンの分離・確認	・遷移元素における単体とその化合物について性質と用途を理解する。	16
5	第2章 化学平衡 1. 可逆反応と化学平衡 2. 平衡の移動	・化学平衡の法則を各平衡状態において考察する。 ・ルシャトリエの原理を理解する。	16	11	第5編 有機化合物 1章 有機化合物の特徴と構造 1. 有機化合物の特徴 2. 有機化合物の構造式の決定	・有機化合物の特徴と分類の仕方を理解する。 ・化学式の決定方法について理解する。	16
6	第3章 水溶液中の化学平衡 1. 電離平衡 2. 塩の水への溶解	・酸・塩基を化学平衡の視点から理解する。 ・水の電離平衡から、水のイオン積の成り立ちを理解し、対数を使ったpHの計算法を習得する。 ・溶解度積の計算を習得する。	16	12	第2章 炭化水素 1. 飽和炭化水素 2. 不飽和炭化水素	・飽和炭化水素の構造と性質を理解する。 ・不飽和炭化水素の構造と性質を理解する。	12
7	第4編 無機物質 2章 非金属元素の単体と化合物 1. 水素と希ガス 2. ハロゲンとその化合物 3. 酸素・硫黄とその化合物 4. 窒素・リンとその化合物	・非金属元素の単体とその化合物について性質と用途を理解する。	12	1	第3章 酸素を含む有機化合物 1. アルコールとエーテル 2. アルデヒドとケトン 3. カルボン酸とエステル 4. 油脂とセッケン	・酸素を含む官能基の誘導体の構造と性質を理解する。 ・セッケンの製法および構造と洗浄のしくみを理解する。	12
8	5. 炭素・ケイ素とその化合物		4	2	第4章 芳香族化合物 1. 芳香族炭化水素 2. 酸素を含む芳香族化合物 3. 窒素を含む芳香族化合物 4. 芳香族化合物の分離	・芳香族炭化水素の性質や構造を理解する。 ・フェノール類と芳香族カルボン酸の性質と構造を理解する。 ・芳香族アミンの構造と性質を理解する。 ・分離法の原理を理解する。	16
9	3章 典型元素の単体と化合物 1. アルカリ金属とその化合物 2. 2族元素とその化合物 3. 1, 2族以外の典型元素とその化合物	・金属元素における単体とその化合物について性質と用途を理解する。	16	3			12

備考

教 科 名	理科		科 目 名		物理		単 位 数		4		
対 象	高校2年(理系)		履 修 形 態		選択		授 業 形 態		一斉		
学 習 の 到 達 目 標	① 物理的な事物・現象についての関心・探究心を高め、概念や原理・法則を理解する。 ② 自然の事物・事象についての観察・実験などを行い、自然を探究する能力や態度を高める。										
評 価 の 観 点 評 価 方 法	① 知識・技能・・・定期考査、実験技能やレポートの提出状況、及びその内容で評価 ② 思考・判断・表現・・・実力テストや定期考査で評価 ③ 主体的に学習に取り組む態度・・・授業での活動状況、課題の取り組み状況で評価										
学 習 方 法	① 授業の板書内容をノートに整理し、要点をとらえる。 ② 授業時に行う演習で、基本事項を確実に押さえる。 ③ 自ら進んで問題演習を行い、理解を深める。										
	物理基礎(数研出版)、物理(数研出版) センサー総合物理(啓林館)										
年 間 授 業 計 画											
月	学 習 内 容		学 習 の ね ら い		時数	月	学 習 内 容		学 習 の ね ら い		時数
4	第3章 運動量の保存 1. 運動量と力積 2. 運動量保存則		・運動量を理解し、運動量変化と力積の関係を理解する。 ・運動量保存則と反発係数の定義を正確に理解し、直線上の運動で使うことができる。		12	10	第3編 波 第1章 波の伝わり方 1. 正弦波 2. 波の伝わり方		・波を三角関数を導入し理解する。 ・波の干渉、屈折、回折を理解する。 ・波の示す屈折などの現象を理解する。		16
5	3. 反発係数 第4章 円運動と万有引力 1. 等速円運動		・衝突、合体、分裂の場合に関して運動量保存則や反発係数の定義、力学的エネルギー保存則や相対速度を使い、衝突後の物体の運動を記述できる。		16	11	第2章 音の伝わり方 1. 音の伝わり方 2. 音のドップラー効果 第3章 光 1. 光の性質		・音のドップラー効果の公式を使うことができる。 ・光の示す屈折などの現象を知り、折の法則を使うことができる。		16
6	2. 慣性力		・等速円運動を理解し、力のつり合い運動方程式、力学的エネルギー保存則を使いこなし、物体の運動を記述できる。 ・慣性力を理解し、加速度運動上での物体の運動を記述できる。		16	12	2. レンズ 3. 光の干渉と回折		・レンズの公式を理解する。 ・ヤングの実験、回折格子について干渉の条件式を理解し、使うことができる。		12
7	3. 単振動 4. 万有引力		・単振動を身近な運動に関連づけ考察し、三角関数を用いて記述することで、物体の運動が理解できる。 ・ケプラーの法則を理解し、円運動および楕円運動の衛星に対して適切に当てはめて考察することができる。		12	1	第4編 電気と磁気 第1章 電場		・クーロンの法則、電場、電位、を理解し、点電荷がつくる電場電位を求めることができる。 ・コンデンサーの特性を理解し、直列、並列接続時の電気量を求めることができる。		12
8	第2編 熱と気体 第1章 気体のエネルギーと状態変化 1. 気体の法則		・ボイルの法則、シャルルの法則、ボイルシャルルの法則を理解する。		4	2	第2章 電流		・複数の抵抗がある場合の合成抵抗の求め方や等価回路を作り方を理解し、複雑な回路でも抵抗のジュール熱を求められる。 ・キルヒホッフの法則を理解し、抵抗を流れる電流を求めることができる。		16
9	2. 気体分子の運動 3. 気体の状態変化		・状態方程式を使える。 ・熱力学第一法則を理解する。 ・ミクロな立場で、気体分子の運動を理解し、運動エネルギーと温度の関係性を理解する。 ・定圧変化、定積変化、等温変化、熱変化などのグラフを見て、熱力学第一法則を理解する。		16	3	第3章 電流と磁場		・電流が作る磁場について理解し状況ごとに書くことができる。 ・電流が磁場から受ける力について理解し適切に公式を使える。 ・ローレンツ力を理解し、円運動する荷電粒子の運動を記述できる。		12

備考

教科名	理科	科目名	生物	単位数	4		
対象	高校2年(理系)	履修形態	選択	授業形態	一斉		
学習の到達目標	① 自然の事物・現象について理解する。 ② 人間と自然のかかわりについて考察し、自然に対する関心や探究心を養う。						
評価の観点 評価方法	① 知識・技能・・・定期考査、実験技能やレポートの提出状況、及びその内容で評価 ② 思考・判断・表現・・・実力テストや定期考査で評価 ③ 主体的に学習に取り組む態度・・・授業での活動状況、課題の取り組み状況で評価						
学習方法	① 授業の板書内容をノートに整理し、要点をとらえる。 ② 授業時に行う演習で、基本事項を確実に覚える。						
教科書・教材等	生物(東京書籍) センサー総合生物(啓林館)，オリジナルテキスト						
年間授業計画							
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	〔生物〕 1編 生物の進化 1章 生命の起源と細胞の進化	・原始地球の環境について理解し、生命の起源がどのように誕生したかを考える。 ・無機物から有機物であるアミノ酸が合成できることを理解する。 ・細胞の起源について理解し、生命の誕生について理解する。 ・RNAワールドからDNAワールドへの移行について理解を深める。	12	10		・生命活動を担うタンパク質の基本的な特徴を理解する。 ・タンパク質がどのようにはたらくのかを理解する。 ・いろいろな運動にかかわるタンパク質について理解する。 ・酵素のはたらきを中心に生体内の化学反応について理解する。	16
5	2章 遺伝子の変化と進化のしくみ	・シアノバクテリアの誕生と酸素濃度上昇の関係を理解する。 ・遺伝的変異が生じるしくみを理解する。 ・遺伝子レベルと染色体レベルで起こる突然変異の違いを理解する。 ・遺伝子の連鎖と独立について理解する。	16	11	2章 代謝とエネルギー	・ATPの役割や生物がどのようにエネルギーを獲得しているかを理解する。 ・呼吸と発酵のしくみについて理解する。 ・光合成のしくみについて理解する。	16
6		・進化の定義について理解する。 ・自然選択による進化が起こる条件について理解する。 ・遺伝子プールと遺伝子頻度についての理解する。 ・遺伝的浮動について理解する。 ・ハーディ・ワインベルグの法則を理解する。 ・種分化のしくみを理解する。	16	12	3編 遺伝情報の発現と発生 1章 遺伝情報とその発現	・植物と動物それぞれの窒素同化とそのしくみについて理解する。見られる相互作用について理解する。 ・DNAの構造とその複製について理解する。 ・タンパク質が合成される過程と形質が発現する過程を理解する。	12
7	3章 生物の系統と進化	・形態や生態的特徴に基づく系統樹と、分子情報に基づく系統樹をそれぞれ作成し比較する。 ・分子時計についての理解を深める。 ・種と種名、階層的分類について理解する。	12	1	2章 発生と遺伝子発現	・細胞の形や機能の違いは、発現する遺伝子の違いであることを理解する。 ・大腸菌の環境に対する応答を理解する。 ・大腸菌変異株でのlacZの発現はどのように説明できるか考える。	12
8		・霊長類の進化と系統についての理解を深める。 ・初期の人類の特徴について理解する。 ・原人、旧人について理解する。 ・ヒトの出現について理解する。 ・これまでに学習した用語を使って、人類の進化について整理する。	4	2		・真核生物の遺伝子発現の調節について理解する。 ・受精卵から複雑な体ができる過程を理解する。 ・胚葉や組織が分化する細胞間で見られる相互作用について理解する。	16
9	2編 生命現象と物質 1章 細胞と物質	・生物を構成する物質を理解する。 ・生体膜の透過について理解する。 ・細胞の構造とはたらきを理解する。	16	3	3章 遺伝子を扱う技術	・ショウジョウバエの発生の様子と発生をつかさどる遺伝子について理解する。 ・目的の遺伝子を取り出して調べる技術、遺伝子を操作する技術について理解する。	12

備考

教科名	理科		科目名		理科基礎演習		単位数	4		
対象	高校2年(文系)		履修形態		選択		授業形態	一斉		
学習の到達目標	① 化学・生物の基礎的な内容を理解する。 ② 科学に対する関心を高め、科学を探究する基礎的な方法を身につける。 ③ 基本的な概念を理解し、物質について微視的な見方ができるようにする。									
評価の観点 評価方法	① 知識・技能・・・定期考査、実験技能やレポートの提出状況、及びその内容で評価 ② 思考・判断・表現・・・実力テストや定期考査で評価 ③ 主体的に学習に取り組む態度・・・授業での活動状況、課題の取り組み状況で評価									
学習方法	① 授業の板書内容をノートに整理し、要点をとらえる。 ② 授業時に行う演習で、基本事項を確実に押さえる。 ③ 自ら進んで問題演習を行い、理解を深める。									
教科書・教材等	化学基礎(東京書籍)、生物基礎(東京書籍) センサー化学基礎(啓林館)、センサー生物基礎(啓林館)、オリジナルテキスト									
年間授業計画										
月	学習内容		学習のねらい		時数	月	学習内容		学習のねらい	時数
4	物質の成分 物質の構成元素 物質の三態 原子の構造 元素の性質と周期律		オリジナルテキストの演習問題に取り組みながら、基礎事項をおさえる。		12	10	酸と塩基 水素イオン濃度とpH 中和反応と塩の生成 中和滴定		オリジナルテキストの演習問題に取り組みながら、基礎事項をおさえる。	16
5	生物の多様性と共通性 エネルギーと代謝 呼吸と光合成		オリジナルテキストの演習問題に取り組みながら、基礎事項をおさえる。		16	11	さまざまな植生 植生と遷移 気候とバイオーム		オリジナルテキストの演習問題に取り組みながら、基礎事項をおさえる。	16
6	イオンとイオン結合 分子と共有結合 金属と金属結合 物質の分類		オリジナルテキストの演習問題に取り組みながら、基礎事項をおさえる。		16	12	酸化と還元 酸化算と還元剤 金属と酸化還元反応 電池・電気分解		オリジナルテキストの演習問題に取り組みながら、基礎事項をおさえる。	12
7	遺伝情報とDNA 遺伝情報の発現 遺伝情報の分配		オリジナルテキストの演習問題に取り組みながら、基礎事項をおさえる。		12	1	生態系 物質循環とエネルギー 生態系のバランス 生態系の保全		オリジナルテキストの演習問題に取り組みながら、基礎事項をおさえる。	12
8	原子量・分子量・式量 物質質量 溶液の濃度 化学反応式と量的関係		オリジナルテキストの演習問題に取り組みながら、基礎事項をおさえる。		4	2	化学と人間生活		オリジナルテキストの演習問題に取り組みながら、基礎事項をおさえる。	16
9	体液という体内環境 腎臓と肝臓 神経とホルモン		オリジナルテキストの演習問題に取り組みながら、基礎事項をおさえる。		16	3	生物と人間生活		オリジナルテキストの演習問題に取り組みながら、基礎事項をおさえる。	12

備考

教 科 名	保健体育	科 目 名	体育	単 位 数	2
対 象	高校2年	履 修 形 態	必修	授 業 形 態	一斉
学 習 の 到達 目 標	運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。				
評 価 の 観点 評 価 方 法	① 忘れ物や提出物を含め、授業を通して自らを高めようとする意欲・関心・態度を評価する。 ② 各競技の技能を実技テストによって総合的に評価する。 ③ 各学期ごと、自己の振り返り、努力・工夫したことを思考・判断として総合的に評価する。				
学 習 方 法	① 集団行動 ② 基礎的・合理的な運動の実践				
教科書・教材等	必要に応じて視聴覚教材				

年 間 授 業 計 画							
月	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	時数	月	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	時数
4	体づくり運動 ※体育理論 運動やスポーツの効果的な学習の仕方	体を動かす楽しさや心地よさを味わい、健康の保持増進や体力の向上を図り、目的に適した運動の計画や自己の体力や生活に応じた運動の計画を立て実生活に役立てることができる。	6	10	球技：ゴール型 (サッカー/フットサル)	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする。 ゴール型では、状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きによって空間への侵入などから攻防を展開する。	8
5	陸上競技	運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解できる。 記録の向上や競争の楽しさを味わい、各種目特有の技能を高めることができる。	8	11			8
6			8	12	球技：ゴール型 (バスケットボール)	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする。 ゴール型では、状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きによって空間への侵入などから攻防を展開する。	6
7	球技：ベースボール型 (ソフトボール)	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする。 ベースボール型では状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防を展開する。	6	1			6
8			2	2	球技：ネット型 (バドミントン/卓球)	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする。 ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防を展開する。	8
9	サッカー	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする。 ゴール型では、状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きによって空間への侵入などから攻防を展開する。	8	3			6

備考

教科名	保健体育	科目名	保健	単位数	1		
対象	高校2年	履修形態	必修	授業形態	一斉		
学習の到達目標	① 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。						
評価の観点 評価方法	① 忘れ物や提出物などを含め、授業を通して自らを高めようとする意欲・関心・態度を評価する。 ② 保健分野における知識をテストによって総合的に評価する。 ③ 各学期ごと、自己の振り返り、努力・工夫したことを思考・判断として総合的に評価する。						
学習方法	① 教科書・資料を用いた学習						
教科書・教材等	現代高等保健体育（大修館書店）						
年 間 授 業 計 画							
月	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	時数	月	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	時数
4	生涯の各段階における健康	生涯にわたって健康を保持増進するには、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりがかかっていること。	2	10			3
5			3	11	環境と健康	人間の生活や産業活動は、自然環境を汚染し健康に影響を及ぼすこともあること。それらを防ぐには、汚染の防止及び改善の対策を取る必要があること。	3
6	保健・医療制度及び地域の保健・医療機関	生涯を通じて健康を保持増進するには、保健・医療制度や地域の保健所、保健センター、医療機関などを適切に活用することが重要であること。 また、医薬品は、有効性や安全性が審査されており、販売には制限があること。疾病からの回復や悪化の防止には、医薬品を正しく使用することが有効であること。	4	12			4
7			3	1	環境と健康食品の健康	環境衛生活動は、学校や地域の環境を健康に適したものにしよう基準が設定され、それに基づき行われていること。また食品衛生活動は、食品の安全性を確保するよう基準が設定され、それに基づき行われていること。	3
8			0	2	労働と健康	労働災害の防止には、作業形態や作業環境の変化に起因する傷害や職業病などを踏まえた適切な健康管理及び安全管理をすることが必要であること。	4
9	様々な保健活動や対策	我が国や世界では、健康課題に応じて様々な保健活動や対策が行われていること。	3	3			2

備考

教科名		外国語	科目名		英コミⅡ、論表Ⅱ		単位数	5			
対象		高校2年	履修形態		必修		授業形態	習熟度別			
学習の到達目標		① 必要な情報を得て、話し手や書き手の意図を把握したり概要や要点を目的に応じてとらえたりすることができる。 ② 英語を通じて、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす。 ③ 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して発信することができる。									
評価の観点 評価方法		① 4技能（読む・書く・聞く・話す）のための知識と技能を身につけているかという観点で、定期考査、実力テスト、小テストなどによる評価を行う。（知識・技能） ② 学習した知識や技能を活用して概要や要点などを目的に応じてとらえることができているかという観点で、定期考査、実力テスト、授業時における英語活動などによる評価を行う。（思考・判断・表現） ③ 異文化理解や英語を用いてのコミュニケーションへの主体的な取り組みという観点で、授業や課題への取り組み、提出物などによる評価を行う。（主体的に取り組む態度）									
学習方法		① 本文を読んでその内容を、文構造や文脈、論旨など様々な面から理解する。 ② 音声教材を利用するや音読を通して、リスニング（スピーキング）対策に努める。 ③ 大学受験に向け、受験対策問題や過去問題に積極的に取り組む。									
教科書・教材等		教科書 ENRICH LEARNING ENGLISH COMMUNICATIONⅡ（東京書籍）、 FACTBOOK English Logic and ExpressionⅡ（桐原書店） 副教材 GRAMMARMASTER(Z会出版)、大学入試過去問題対策等、無双英語、速読英単語 必修編（Z会）									
年間授業計画											
月	学習内容		学習のねらい		時数	月	学習内容		学習のねらい		時数
4	補助教材・副教材を用いて 大学受験対策演習 ＊教科書は必要に応じて使用する。		長文を読んでいく中で、パラグラフの構造を理解し、筆者の述べたいポイントをつかみ、場合によっては要約に取り組む。		18	10	補助教材・副教材を用いて 大学受験対策演習 ＊教科書は必要に応じて使用する。	各パラグラフの論理関係、展開を追ひ、文章全体の意味を把握する。	24		
5					24	11			24		
6					24	12			18		
7					夏期集中講座				18	1	冬期集中講座
8	補助教材・副教材を用いて 大学受験対策演習 ＊教科書は必要に応じて使用する。		パラグラフリーディングを通し、文章全体の要約に取り組む。 情報を正確に素速く処理し文章を読む。	24							
9				補助教材・副教材を用いて 大学受験対策演習 ＊教科書は必要に応じて使用する。		各パラグラフのポイントを理解し、パラグラフどうしの論理的な関係をつかむ。		24	3	18	

備考 学習・演習内容や使用教材などは、クラスにより異なる。